

令和2年度

仙台市学校図書館運営モデル校  
取組事例集



令和3年10月

仙台市教育委員会

# はじめに

このリーフレットは、仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）に基づき平成 29 年度から実施している「学校図書館運営モデル校事業」の、令和 2 年度モデル校の取組をまとめたものです。

モデル校が実施した学校図書館運営に関する取組内容や取組の結果等を紹介していますので、各校における学校図書館運営の参考としていただき、子どもの読書環境の充実につなげていただきたいと思います。

また、仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）についても抜粋して紹介していますので、取組を進めるにあたって、本市の子ども読書に関する目標や考えを今一度ご確認ください。

## ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 目 次 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

|   |                         |    |
|---|-------------------------|----|
| 1 | 仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）について |    |
|   | （1）計画の策定                | 1  |
|   | （2）計画の目的と基本の方針          | 1  |
|   | （3）成果指標                 | 2  |
|   | （4）重点的な取組               | 2  |
| 2 | 仙台市学校図書館運営モデル校事業        |    |
|   | （1）計画における位置づけ・事業概要      | 3  |
|   | （2）令和 2 年度モデル校の取組事例紹介   |    |
|   | ・荒町小学校                  | 4  |
|   | ・鹿野小学校                  | 6  |
|   | ・折立小学校                  | 8  |
|   | ・川前小学校                  | 10 |
|   | ・寺岡小学校                  | 12 |
|   | ・富沢小学校                  | 14 |
|   | ・錦ヶ丘小学校                 | 16 |
|   | ・山田中学校                  | 18 |
|   | ・八乙女中学校                 | 20 |
|   | ・鶴谷特別支援学校               | 22 |
|   | （3）令和 2 年度モデル校事業の総括・今後  | 24 |

# 1 仙台市子ども読書活動推進計画(第三次)について

## (1) 計画の策定

平成 13 年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき政府が策定している「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」を踏まえ、仙台市においても、平成 16 年から仙台市子ども読書活動推進計画の第一次計画、平成 24 年から第二次計画を策定して子どもの読書活動推進に取り組んできました。

現在は、平成 29 年 1 月に、第二次計画期間で見えた課題などを踏まえ新たに策定した「仙台市子ども読書活動推進計画(第三次)」(以下「第三次計画」)に基づき、平成 29 年度から令和 3 年度(平成 33 年度)までの 5 年間の計画期間のなかで様々な取組を推進しています。

## (2) 計画の目的と基本の方針

### 計画の目的

子どもが自ら読書に楽しみ、人生をより深くより豊かに生きる力を身に付けることができる読書環境をつくる

第三次計画では、子どもが読書に親しむだけでなく、自ら進んで楽しく読書することを通して、様々な知識や経験や考え方に触れ、身近なことから国際的・専門的なことまで幅広く多くのことを学び、人生をより深くより豊かに生きることができる力を身に付けられるよう、多様な読書活動ができる環境づくりを目指しています。

また、この目的を達成するために次の 4 つの基本の方針を掲げています。

### 基本の方針

#### (1) 子どもが読書に親しむ機会の提供

子どもが読書の楽しさ、大切さを知ることができるよう、家庭、地域、学校等において子どもが読書に親しむ機会を幅広く提供していきます。また、子どもの発達段階に応じた読書支援を行い、子どもが読書を継続的に楽しむことのできる力を育てます。

#### (2) 子どもの読書環境の整備・充実

子どもが自ら足を運び、本を手に取りやすい読書環境の整備・充実を図るとともに、子どもの読書活動を支える人材の育成や支援に取り組めます。

#### (3) 子どもの読書に関する理解の促進

子どもの身近にいる大人に対し、読書の意義や大切さについて啓発活動を行うとともに、子どもだけでなく大人も読書に親しめる環境づくりを通じて、社会全体で子どもの読書活動を推進します。

#### (4) 家庭、地域、学校、図書館、ボランティアなどの連携・協力

子どもの読書活動を取り巻く様々な主体が相互に協力し、連携を図りながら計画を推進します。

### (3) 成果指標

計画の推進状況把握のため、目的達成と関連性のある指標について成果指標を設定しています。

しかし、読書活動の数量的な広がりだけを求めるのではなく、子どもたちの感性を磨き、表現力を高め、創造力を育むことのできるような質の高い読書活動を広めていくことも必要です。

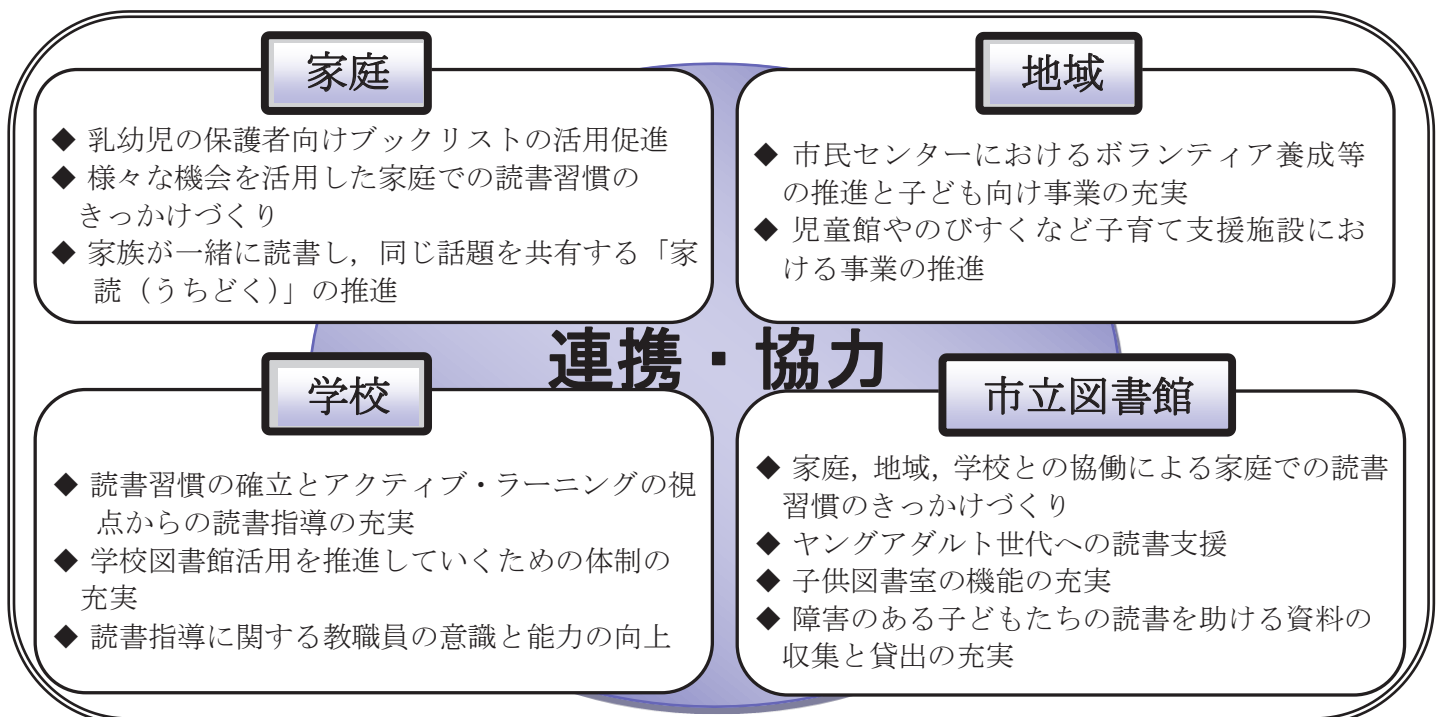
| 成果指標   |    | 第二次実績<br>(平成28年度) | 第三次目標<br>(令和3年度) |
|--|----|-------------------|------------------|
| 家や図書館でふだん(月～金)1日に30分以上読書する児童・生徒の割合(教科書, 参考書, 漫画, 雑誌を除く。) | 小6 | 39.3%             | 45.0%            |
|  | 中3 | 30.8%             | 35.0%            |
| 昼休みや放課後, 学校が休みの日に, 学校図書館や地域の図書館へ月1回以上行く児童生徒の割合           | 小6 | 39.4%             | 45.0%            |
|  | 中3 | 18.5%             | 25.0%            |
| 市立図書館児童書蔵書冊数<br>(15歳以下1人あたりの平均蔵書冊数)                      |    | 5.2冊              | 5.5冊             |
| 市立図書館児童書貸出冊数<br>(15歳以下1人あたり年間平均貸出冊数)                     |    | 9.0冊              | 10.5冊            |
| 市立小・中学校の学校図書館貸出冊数<br>(1人あたりの年間平均貸出冊数)                    | 小  | 39.8冊             | 37冊(※1)          |
|  | 中  | 6.3冊              | 9冊               |
| 市立図書館おはなし会参加人数   |    | 12,249名           | 12,000名          |
| 1か月に1冊も本を読まない子どもの数(不読率)                                  | 小  | —                 | 3%(※2)           |
|  | 中  | —                 | 12%(※2)          |

※1 計画期間中, 毎年度37冊を目標とする。

※2 平成28年度子どもの読書活動に関するアンケート調査では, 仙台市の不読率は小学生5.9%, 中学生16.5%。国の第三次基本計画では, 計画5年目の平成29年度の指標として, 小学生3%以下, 中学生12%以下として設定している。

### (4) 重点的な取組

計画の目的を達成するために, 4つの基本的方針のもと, 家庭・地域・学校・図書館という4つのフィールドにおける重点的な取組を掲げ, 計画の推進を図っています。



## 2 仙台市学校図書館運営モデル校事業

### (1) 計画における位置づけ・事業概要

第三次計画では、学校における重点的な取組として「学校図書館活用を推進していくための体制の充実」を掲げており、その具体的取組の1つとして平成29年度より開始したのが「学校図書館運営モデル校事業」です。

当事業では、学校図書館を利用する児童生徒を増やし、子どもの読書に対する興味関心を喚起するための取組推進を目的として、学校図書館運営に関し特色のある取組をする学校を学校図書館運営モデル校に認定し、図書購入費などの重点配分を行います。

令和2年度は、学校図書館運営に関し先進的・特徴的な取組を実施している学校や今後の取組を期待する学校などをモデル校に認定し、図書購入費及び備品購入費の重点配分を行いました。

#### ＜令和2年度モデル校＞

| 学校種別           | 学校名      | 重点配分額<br>(図書購入費) | 重点配分額<br>(備品購入費) |
|----------------|----------|------------------|------------------|
| 小学校<br>(7校)    | 荒町小学校    | 150千円/校          | 85千円/校           |
|                | 鹿野小学校    |                  |                  |
|                | 折立小学校    |                  |                  |
|                | 川前小学校    |                  |                  |
|                | 寺岡小学校    |                  |                  |
|                | 富沢小学校    |                  |                  |
|                | 錦ヶ丘小学校   |                  |                  |
| 中学校<br>(2校)    | 山田中学校    | 150千円/校          | 85千円/校           |
|                | 八乙女中学校   |                  |                  |
| 特別支援学校<br>(1校) | 鶴谷特別支援学校 | 150千円/校          | 85千円/校           |

### (2) 令和2年度モデル校の取組事例紹介

各モデル校において、読書に関する課題や当事業実施に当たり定めた実施目標のもと、重点配分予算を活用した図書購入や備品等購入による読書環境整備、それらを含め図書館運営・利活用に関する様々な取組が行われました。

令和2年度は感染症対策の観点から、学校図書館運営について各校で様々な工夫をしていただき、これまでの運営方法を見直し、貸出方法の変更や、ソーシャルディスタンスをとるための工夫、各学年での時間の割り当てを行う等の取組が見られました。

学校図書館内だけでなく、移動書架やいつでも誰でも見ることのできる掲示物を通しての読書推進の取組も見られ、備品を利活用して読書啓発・環境整備のための工夫を実践いただきました。

# 荒町小学校

【児童数：495人】

(R2.5.1現在)

## ◆ モデル校としての目標 ◆

- ・普段から読書に親しむ環境をつくる（学級文庫の整備等）
- ・年間読書冊数 32冊/1人

### 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 図書館の本を借りようとしても、人気のある本がなかなか借りることができない。
- 調べ学習をするのに必要な資料本が足りない。

### 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

#### 1 感染症対策に考慮した、貸出冊数を増やす取組【新】

- 学年ごとに貸出を業間と昼休みに分け、1回2冊借りることができるようにした。
- 学年部ごとの返却ボックスを設置し、密を避けた迅速な貸出を行い、多くの児童が借りることを可能にした。

#### 【ブックトラックの活用】

#### 2 図書委員による活発な活動【新】

密を避けるために「図書まつり」は開催しなかったが、分散させて以下の取組を行った。

- ポイントカードを作り、20ポイントごとに図書委員が作成したしおりを渡す。
- クイズに答えると3冊貸出券がもらえる、先生へのインタビューなど、内容を工夫した図書新聞を発行した。
- 毎週、1～2年生を対象に、6年生による朝の読み聞かせを行った。
- 校内放送を利用し、図書室や本の紹介を行った。



#### 3 ブックトラックを利用した学年ごとの移動書架の活用【新】

- 各学年の学習計画を把握し、学習内容・時期に合わせて移動書架を配架した。
- ブックトラックに学校独自の「朝読書パック」を配架し、図書費を利用して子どもに人気のあるシリーズ本の蔵書充実を図った。5～6年生は、図書委員が選書した本を配架した。

#### 4 夕読み活動の実施【継】

- 各学年の「音読カード」を工夫し、音読と読書に取り組んだ。  
(例) 音読だけでなく、読書をした本を記録していく。  
月の最後に、紹介したい本やおもしろかった本などの感想を記録する。等

### 取組による効果

#### 1 感染症対策に配慮した、貸出冊数を増やす取組

- カウンターに並ぶ時間の短縮につながり、多くの児童が借りる時間を確保することができた。
- 返却ボックスを利活用することで、貸出をスムーズに行うことができた。

【学校図書館利用時の様子】



## 2 図書委員による活発な活動

- 図書委員の自主的で活発な活動が、児童の読書意欲の向上につながった。また、様々な企画を楽しみに図書館に本を借りて足を運ぶ児童が増えた。
- 6年生は、自分達で朝読書パックを選び、配架作業も行い、教室の近くに置くことで、積極的に本を手にする機会が増えた。

## 3 ブックトラックを利用した学年ごとの移動書架の活用

- 各学年の年間指導計画に合わせて図書を準備し、学習に迅速に対応することができた。
- 各学年のブックトラックを整備し、常に稼働する環境整備ができた。

## 4 夕読み活動の実施

- 各学年で音読カードの工夫をしたことが、意欲的な読書活動につながった。特に低学年は、毎日少しでも読書をしようとする習慣が身に付いた。

### 目標の達成状況

- 感染症対策を行いながら、児童に対して、図書館の積極的な利用を促す環境整備や働きかけができた。
- 6年生の年間平均貸出冊数は29冊と目標にわずかに及ばなかったが、1～5年生は32冊の目標を達成した。特に1年生は平均が94冊、2年生は87冊と目標の2倍以上の成果があった。
- 1か月の平均読書冊数も令和元年度は0冊の生徒割合が6%、5冊以上の生徒割合が55%だったが、令和2年度は0冊の生徒割合が1%へと改善し、5冊以上の生徒割合は70%と本を読む児童が増えた。

### 取組を振り返って

- 感染症対策のために、児童が図書館に足を運び、図書館でゆっくりと読書を行う環境をつくることが大変難しい状況だったが、様々な工夫（2冊貸出、図書委員の企画等）で、読書や図書館への関心を高めることができた。
- ブックトラックを利用した配架は、児童に人気のある本の蔵書の充実、読書パックの整備、学習計画に合わせた本の準備と配架の取組を行うことで、児童が本を身近に置き、必要な本を手にとることができる環境整備につながった。
- 図書委員の活動が6年生全体に広がり、低学年への読み聞かせという自主的な活動につながった。
- 常に本を手元に置き、学習の合間に本を開いて読む児童が多くなった。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 各学年にブックトラックが配置できたことで、図書室から積極的に各学年に働きかけ、連絡を取り合って調べ学習や読書活動で使用する図書を集めて貸し出すことが可能になった。
- 図書委員会の児童の意見やアイデアを積極的に実践し、自主的な活動を推奨できたことが、全校の読書冊数、貸出冊数の増加につながった。

# 鹿野小学校

【児童数：396人】

（R2.5.1現在）

## ◆ 事業実施目標 ◆

豊かな心と志を育てるために、読書活動の質的向上を目指す。

### 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 図書事務員による季節や学習内容に合わせたレイアウトや、授業での図書館利用が行われ、休み時間も多くの児童が図書室での読書を楽しむ一方、児童が手に取る本の多くは学習漫画や図鑑であり、物語をじっくり読む児童が少ない。
- 図書館の蔵書が古く、児童の閲覧回数も多いので傷んでいる本が多い。

### 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

#### 1 蔵書の充実【新】

- 各学年の学習内容に合った図書を新しく購入し、蔵書の充実を図った。

#### 【調べ学習関連の本の紹介】

#### 2 蔵書の整理、廃棄【継】

- 傷みが激しい図書や、内容が古くなった図書の整理を行い、書架を有効活用した。



#### 3 移動書架の設置【新】

- 授業で紹介された図書や、調べ学習に活用できる図書を、移動式書架に配架し、必要に応じて廊下に配置した。

#### 4 季節、イベント、調べ学習関連本の紹介【継】

- 図書事務員により、季節に合わせて工夫された掲示物が掲示された。
- 調べ学習の次期に合わせた本を、目立つ場所に掲示した。

### 取組による効果

#### 1 蔵書の充実

- これまでは「読み物」図書の割合がやや多めだったが、授業で活用できる図書の蔵書を充実させたことで、児童がより多くの本に触れて学習を進めることができた。

#### 2 蔵書の整理、廃棄

- 古い本を整理、廃棄したことで、新しい図書をバランスよく配架できた。
- 児童が図書を手に取りやすい配架としたことで、読書意欲の喚起につながった。

#### 【移動書架の設置】





### 【あたらしい本の紹介】

### 3 移動書架の設置

- 移動書架を配置したことで、必要に応じて多くの図書を簡単に教室間移動することができた。
- 授業での利活用が図られ、学習と関連した本を手にする児童が多く見られた。



### 4 季節、イベント、調べ学習関連本の紹介

- 読書の意欲が掲示や紹介により高まった。
- 掲示物で季節の移り変わりを感じることができ、児童の図書館来館への意欲につながった。

## 目標の達成状況

- 古い図書を廃棄し、学習に活用できる図書を中心に入れ替えて、より多くの児童の手に図書が届くような環境整備に取り組んだ。
- 移動書架に調べ学習に活用できる図書を配架したことで、児童が図書を手に取りやすい環境整備を行い、図書から情報を得やすい環境にすることができた。
- 児童生徒の一か月の平均読書冊数について、1～4冊の生徒割合が令和元年度は68%だったことに対し、令和2年度は29%へと改善した。その代わりに、5～11冊以上の生徒割合が、令和元年度は25%だったことに対し、令和2年度は60%となり、全体的な読書冊数の底上げができた。

## 取組を振り返って

- 児童生徒の一か月の平均読書冊数は、昨年比べて大幅に増やすことができ、個人の読書量が増えたことが分かる。
- 古い図書を整理、廃棄し、新しい図書を購入したことで読書量が増えたと考えられる。個人の読む本のジャンルにはまだ偏りが見られるので、今後も計画的に蔵書リニューアルを図っていきたい。
- 当初予定していた、「読み聞かせボランティア・保護者による選書会」は感染症対策のために中止としたので、今後の状況を見ながら改めて計画したい。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 移動書架の設置をすることで、教科や総合的な学習の時間に生かすことができる図書などを児童が気軽に手に取れる環境を作ることができ、読書量の増加や図書室活用の促進につながっている。
- 季節やイベント、調べ学習に関連する本の紹介を図書室内や図書室前廊下にするすることで、読書意欲の喚起を図っている。

# 折立小学校

【児童数：280人】  
（R2.5.1現在）

## ◆ モデル校としての目標 ◆

週に一度以上図書館に足を運び、本を借り、家族で購入した本も含め、年間60冊以上本を読もう。

### 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 読書への親近感について学年間に格差がある。
- 高学年になると履修内容の増加と行事等での多忙化により、週に一度の図書館での活動時間を確保しづらくなる傾向にある。

### 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

#### 1 児童による選書会の実施【継】

- 図書館運営への参加意識を高めるために、児童選書会を実施。感染症対策のため、保護者は不参加とした。

【児童による選書会】



#### 2 「家読の日」の設定【新】

- 毎週水曜日を「ノーゲームデー（パソコン・スマホ・メディアに触れないようにする日）」とし、「家読用の図書」として特別貸出を行った。
- 家読専用のカードに借りた本を記録し、スタンプをもらうことができる。

#### 3 図書館まつりの開催【継】

- 図書室や読書への関心を高めるために「図書館まつり」を開催し、読書スタンプラリーを行った。
- いろいろな図書に触れることを目的として、指定された分類の図書を借りることで、スタンプを貯めて特別貸出券や図書委員手作りのしおりをもらうことができる。また、景品抽選会にも参加できる。

【書架】



【しあわせのベンチ】



#### 4 図書館内の環境整備【新】

- 備品として「書架」と「ベンチ」を設置し、書架はテーマ提示に活用、ベンチは「しあわせのベンチ」として児童がリラックスして読書ができる場所として活用した。また、児童が関心をもつような掲示物や飾りを作成した。
- 感染症対策として、座席の間隔を開け、図書館前の廊下にも席を設けることで、安心して読書ができる環境を整えた。

【図書に合わせた掲示物や飾り】



## 取組による効果

### 1 児童による選書会の実施

- 選書会を行ったことで、児童に「新しい図書への期待感」を持ってもらうことができた。
- 新しい図書の納品後は、図書館の利用が増えた。

【「家読」の推進】

### 2 「家読の日」の設定

- 「通常貸出」と「特別貸出」で2冊借りることができるため、水曜日に図書館を訪れる児童が増えた。

### 3 図書館まつりの開催

- 図書館まつりを開催したことで、来館する児童が増え、たくさんの図書を貸し出すことができた。
- スタンプラリーを実施したことで、いつもは読んでいない分野の図書に触れるきっかけを創ることができた。

### 4 図書館内の環境整備

- 児童が図書を手に取りやすくなったり、リラックスして読書を楽しめたりする環境にすることができた。
- 居心地の良い図書館になったことで、休み時間の図書館利用を促進することができた。



## 目標の達成状況

- 年間 60 冊以上(1 か月に 5 冊以上)の本を読んでいる児童の割合について、令和元年度は約 24% だったことに對し、令和 2 年度は約 57% となり、目標を達成した児童数が倍以上に増加した。
- 児童生徒の 1 か月の平均読書冊数について、0～2 冊の児童割合が令和元年度は約 45%，3～11 冊以上が約 55% だったことに對し、令和 2 年度は 0～2 冊が約 28% へと改善し、3～11 冊以上が約 72% となり、読書冊数の全体的な底上げができた。

## 取組を振り返って

- 児童による選書会や家読の日の設定、図書館まつりの開催によって、児童の読書への関心が高まった。
- 児童は読書や、読み聞かせに親しんでおり、新しい図書の貸出や図書館まつりを楽しみにしていた。
- 様々な取組を通して、図書館の「読書センター」としての機能を高めることができたと考えている。一方、教科学習や総合的な学習の時間での利活用の機会は、テーマ貸出に限られ、その回数も各学年 1 回程度であった。「学習センター」としての環境整備を通して、図書館の更なる活用を促進していきたい。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 図書館と読書への親しみ UP！図書館まつり・選書会
- 「もっと読みたい！」に応える家読貸出・特別貸出の「プラス 1 冊」

# 川前小学校

【児童数：492人】  
（R2.5.1現在）

## ◆ 事業実施目標 ◆

文書量の多い良質な図書を進んで選び、じっくりと読む活動を通して、生涯を通じて豊かな読書生活を営む素地を養うために、図書館利用のスキルを身に付けさせるとともに、図書館環境の充実を図る。

## 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 読み聞かせやブックトーク、図書祭り等の行事の際には、一時的に図書館利用率は上がるが定着には至らない。
- 児童の読書習慣定着のためには、家庭で本について話題にする等、保護者自身の読書習慣が大切だと考えている。

## 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

### 1 「家読の日」の設定【新】

- 中学校区の「メディアコントロールデー」である毎月11日を「家読の日」とし、「家読カード」に児童と保護者が感想を書く欄を設けた。
- 教師や図書委員が選ぶ「おすすめ図書コーナー」の設置には、ブックトラックやブックスタンドを活用した。

### 2 読書活動年間指導計画と読書活動のめあての設定【継】

- 国語の教科書の改訂に伴い、読書活動年間計画を改定した。
- 読書活動の目当ては、本を選ぶ助けになる具体的なめあてにした。

### 3 「もう一冊借りられる券」の設定【継】

- 必読賞達成、図書に関するコンクールへの参加などの図書に関するコンクールへの参加等の図書イベントの他、体育委員会とのコラボ企画としてマラソンカード完走賞等にも「もう一冊借りられる券」を発行した。

### 4 地域ボランティアによる読み聞かせ、ブックトーク【継】

- 感染症予防のため、年間を通じた活動はできなかったが、対策を十分に検討した上で、5年生は「仕事」、6年生は「戦争」のテーマでブックトークを行った。
- 関連図書コーナー設置のために、ブックトラックやブックスタンドを活用した。

### 【おすすめ図書コーナー】



### 【読書活動のめあて】



## 取組による効果

### 1 「家読の日」の設定

- 中学校区の「メディアコントロールデー」である毎月11日を「家読の日」と設定し、読書の習慣を身に付けさせることで、中学校に進学してからも「家読の日」の習慣が継続されることが期待できる。

- 「家読カード」に児童と保護者の感想欄を設けることで、「家読カード」から、家庭で本の感想を伝え合うきっかけをつくることができた。

## 2 読書活動年間指導計画と読書活動のめあての設定

- 読書活動年間指導計画を設定し、教職員打合せで読書指導のポイントを声掛けしたことで、教職員の図書館活用の意識改革が効果的にできた。
- 読書活動のめあての設定は、児童が進んで良質な本を選んで読む一助となった。

## 3 「もう一冊借りられる券」の設定

- 児童が読みたい本を借りると同時に、調べ学習等で活用したい本も借りることができ、好評だった。

## 4 地域ボランティアによる読み聞かせ、ブックトーク

- 高学年で「テーマを設定したブックトーク」を行ったことで、図書から学ぶことの良さを再認識させることができた。
- 本の感想を伝え合うことで、地域の読み聞かせボランティアの方々と交流を深めることができた。

【ブックトークの様子】



【ボランティアによる読み聞かせ】



### 目標の達成状況

- 「家読の日」を設定し、家庭で児童と保護者が感想交流する機会を重ねるうちに、保護者が子供の頃に読んだ名作を児童に薦める等の機会が増え、児童の読書の質向上につながった。
- 読書冊数が減少傾向にある5～6年生に、地域ボランティアによる良質なブックトークを行う機会を設けることで、本から学ぶ大切さを実感させ、図書室の利用を促すことができた。

### 取組を振り返って

- 教科書改訂により、特に国語教科書に掲載されている本が大きく変わったため、並行読書や調べ学習に活用する本については、市民図書館の授業用貸出制度を利用し、不足分を補った。図書館教育年間指導計画を作成することで、教職員の図書館活用の意識も高まっていることから、今後も図書館の「情報センター」としての機能を発揮させるため、計画的な図書整備を行う必要がある。
- 保護者や教職員、図書委員、ブックトーク等で紹介された本を読む機会を設定したことで、世代を超えて良質な本の魅力について感想交流を行うことができ、読書を通じたつながりが広がった。これらの活動から、図書委員の中には自ら読み聞かせや本の展示、図書の企画案の提出など、読書活動の充実を図ろうとする意欲的な姿勢を見せる児童もいた。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 読書活動を通して、児童と家庭・学校・地域をつなぐ学校図書館運営を目指しています！
- 豊かな読書生活や、情報活用能力の素地を養うことができる図書館運営を目指しています！

# 寺岡小学校

【児童数：729人】

(R2.5.1現在)

## ◆ モデル校としての目標 ◆

児童が図書館や読書に親しみやすい環境を整備することにより、読書習慣の確立を図る。

### 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 図書室を活用する児童が固定されている。
- 高学年の年間読書冊数が低下傾向にある。

### 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

#### 1 児童・保護者による選書会の実施【新】

- 図書館だよりで、児童と保護者で選書会を実施した。※保護者の参加は新たな試み。
- 選書会で多く投票された本を購入し、新書コーナーに展示しながら貸出をした。

【新書コーナー展示】



【教科書と連携した蔵書】



#### 2 図書祭りや読書賞などの設定【新】

- 昼の放送や休み時間を利用し、図書委員による読み聞かせや、本のクイズを出すイベントを行った。

#### 3 家庭での読書推進【新】

- 家庭で読書する時間を設けてもらい、読書習慣の確立を図った。
- 全学年での取組として、家庭学習カードに読書時間の欄を設け、毎日の読書時間を記録した。
- 冬休みには「うちどくカード」を全家庭に配布し、親子が一緒に本と関わる時間を取るよう推奨した。

#### 4 授業で利用できる本の紹介【新】

- 学級担任が図書館の本を活用できるよう図書環境整備を行った。
  - ・ 様々な教科の導入や発展で利用できそうな本を紹介した。
  - ・ 学級担任が気軽に読み聞かせしやすいよう、図書事務員と協力しながら読み聞かせおすすめの本を職員室に設置し、担当教員をシャッフルしながらの読み聞かせにも取り組んだ。
  - ・ 平行読書を推奨し、国語の教科書に紹介されている本を購入、紹介し、図書館の利活用蔵書整備を行った。

【返却ボックスの利活用】

#### 5 感染症対策を考慮した貸出・返却方法の変更【新】

- 貸出は、休み時間と曜日を割り振り各学年週2回にした。
- 返却は「返却ボックス」を作成し、利活用した。



#### 6 読書に関連する授業取組の図書館での紹介【継】

- 児童が作成した本の帯やポップを、図書館に本と併せて掲示。

## 取組による効果

### 1 児童・保護者による選書会の実施

- 児童自らが選書に参加したことで、図書館への関心が高まり、図書館を訪れる児童が増えた。また、自らが選んだ本が新書コーナーに並ぶと、喜んで借りる様子も見られた。
- 選書会への保護者の参加人数は少なかったが、図書だよりを通じて図書館運営の一部を知ってもらう事ができた。

### 2 図書祭りや読書賞などの設定

- 図書委員による読み聞かせや、本に関するクイズ等により、全校児童の本への興味が高まった。

【図書委員による読み聞かせ】

### 3 家庭での読書推進

- 毎日家庭学習カードに読書時間を記入することで、その日の読書への取組を意識する良い機会となった。学校でも、隙間時間を見つけて読書をする児童が多く見られた。
- 「うちどくカード」の取組も好評で、本を通して親子で有意義な時間を過ごす一助となった。



### 4 授業で使用できる本の紹介

- 各教科での本の活用、教員による読み聞かせ、平行読書により、児童の選書の幅が広がった。
- 感染症対策のため学年集会もなく、担任以外との教員と触れ合う機会が少ない中、担当教員をシャッフルしながらの読み聞かせは、児童と学年教員の交流の機会になり児童も喜んでいました。
- 国語教科書に紹介されている本を棚にまとめて展示したため、教員や児童が探しやすくなった。

### 5 感染症対策を考慮した貸出・返却方法の変更

- 貸出時間が限られたことで、きちんと貸出日に図書館へ通う児童が増えた。

### 6 読書に関連する授業取組の図書館での紹介

- 児童が作成した本の帯やポップを図書館に掲示することで、児童の読書への興味が高めた。

## 目標の達成状況

- 協働型学校評価の重点目標として「1日30分以上読書に親しむ児童の割合を80%以上にする」を設定し、貸出方法を工夫したことにより、教員・児童・家庭それぞれが読書に意識して取り組むことができた。
- ほとんどの児童が学校の貸出目標冊数（下学年50冊、上学年35冊）を達成できた。令和3年度も引き続き、取組内容を検討し工夫していきたい。

## 取組を振り返って

- 児童が本に親しみ、読書を楽しむ習慣を身に付けるためには、本を手に取りたくなるような環境作りが重要であることを改めて感じた。イベント内容の工夫や教職員の働き掛けによって、児童の選書の幅が広がり、知識を増やし、新たな本の魅力に気が付く機会とすることができた。
- 子どもの読書取組への理解を保護者に働き掛けたことで、家庭読書への関心を高め、親子で本に親しむきっかけ作りができた。今後も教職員・保護者とともに児童と本をつなぐ取組を実践する。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 感染症対策を考慮した貸出方法。休み時間に割り当てを決めて、学年ごとに貸出を行った。貸出機会が限られたため、利用児童が増え貸出冊数が増えた。
- 保護者への啓蒙活動。学校協働型教育目標「30分以上の読書」を目指し、家庭学習カードに読書時間の項目を設けたり、冬休みに「うちどく」を親子でもってもらったり、読書活動を行った。

# 富沢小学校

【児童数：818人】

(R2.5.1現在)

## ◆ モデル校としての目標 ◆

児童が図書館や読書に親しみやすい環境を整えるとともに、学習・情報センターとしての利用の促進を図り、年間の学習活動での図書館の利用を学級数の50%以上になることを目指す。

### 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 開校10周年を迎え、資料の更新や分類の見直し、より利用しやすい図書館環境整備が必要。
- 令和元年度は蔵書分類の見直し、書架配置と配架の工夫、カウンターの移動を実施したが、令和2年度は「読書センター」だけではなく、「学習・情報センター」としての機能の充実を図る。
- 児童数増加に伴い、図書館は「読書の時間」のクラス割り当てがほぼ毎時間入っているため、「学習・情報センター」として利用促進するためには、2クラス同時に図書館を利用できるような広さが必要となる。書架の増設や、閲覧テーブル等の配置の工夫を図る。
- 国語の教科書に紹介されている本の更新など、図書資料の充実を図る。

### 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

#### 1 図書館リニューアル【継】

- 図書資料の充実を図り、授業で紹介された本や総合的な学習のテーマに関連した資料を収集した。
- フロアマットやカラーボックスで、図書館環境整備を行った。
- 図書資料を授業活用するため、学年貸出用のファイルワゴンを設置し、各学年の廊下で活用した。

【図書館リニューアル：絵本コーナー】



#### 2 100冊読書カード(読書記録カード)の活用【継・新】

- 100冊以上読んだ児童に「100冊読書賞」を授与。誕生日には「5冊券」をプレゼントした。【継】
- 「学年の本」を選定。「学年の本」を10冊借りると、しおりをプレゼントという試みも行い、利用促進を図った。【新】

【学年貸出用ワゴン】



#### 3 児童・保護者選書会の実施【新】

- これまでも「移動本屋さん」と題して、児童による選書会を行ってきたが、保護者によるリクエストも呼びかけ実施した。

#### 4 図書館サポーターの支援【新】

- 地域連携支援本部「リンク」を通して図書館サポーターを募り、図書館の装飾や整備等を、計画的に支援してもらった。

### 取組による効果

#### 1 図書館リニューアル

- 感染症対策の観点から、密にならない空間の確保のため図書館隣の多目的室との可動壁を開放し、図書館として利用した。閲覧テーブルを間引いたため、複数クラスでの図書館内での学習活動の実施は難しかったが、学年貸出用ワゴンの活用により、各学年の教室前に学習に必要な図書資料を配置し、図書館資料を活用した主体的な学びにつなげることができた。



- 絵本コーナーにフロアマットを敷き、カラーボックスを絵本用書架として利用したことで、ゆったりとくつろいだ雰囲気の中で本に親しむ姿が見られた。

【100冊読書カード】

## 2 100冊読書カード(読書記録カード)の活用

- 図書館の本だけでなく、学級文庫や自分の本も記録することで、自分の読書記録として活用させた。児童の読書意欲を向上させ、100冊目標達成児童は全体の25%となった。
- 「学年の本」は国語の教科書で紹介されている本を中心に選定したことで、自分からはなかなか手に取らないジャンルの本を手にする児童が増えた。



【図書館サポーター】

## 3 児童・保護者選書会の実施

自分の選んだ本が配架されることを楽しみに、図書館を訪れる児童が増えた。



## 4 図書館サポーターの支援

- 保護者や地域の方に選書会の参加を呼び掛けたことで、児童書に興味を持ち、読み聞かせや図書館サポーターとして活動する保護者が増えた。
- 図書館教育への関心・協力の意識を高めることにつながった。

### 目標の達成状況

- 明るく、利用しやすい図書館を目指して環境整備を行い、学習に関連したテーマの蔵書を充実させ、カリキュラムに即した資料貸出を行う事ができるようになった。
- 感染症対策のため、複数のクラスが同時に図書館で授業することは難しく、読書指導以外での図書館授業利用は全体の25%だったが、図書館資料を活用して授業を実施した学級は100%だった。

### 取組を振り返って

- 感染症対策を行いながらの図書館運営は難しいことが多かったが、児童の利用をできるだけ制限しない空間確保のため様々な工夫をした。スペース的な問題は、図書館隣の多目的室との可動壁を開放し、しばらく図書館として利活用した。また、貸出・返却については、カウンターを2か所に分けて設置し、図書館内に一方通行の流れを作った。
- 広く自由に活用できる図書館空間は、児童が主体的・対話的な深い学びを実現するためには必要不可欠である。長期的に考えると、今後児童数の大幅な増加により空き教室がない状況が見込まれ、多目的室の継続利用ができないため、児童数に対して手狭になる図書館をどのように運営していけば良いのか、検討していきたい。
- 今後も引き続き、学年ごとの移動書架の設置、定期的に蔵書を入れ替える書庫の設置等を検討しながら、より利用しやすく、児童が読書に親しみやすい図書館運営を目指していきたい。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 図書館リニューアルによる、使いやすく親しみやすい環境整備。
- 100冊読書カードの活用による読書量の増加。
- 図書館サポーターさんによる支援と、図書館教育への関心・協力の向上。

# 錦ヶ丘小学校

【児童数：1,080人】  
（R2.5.1現在）

## ◆ モデル校としての目標 ◆

- ・学校・家庭での読書時間を増やす。
- ・児童の読書の幅を広げ、様々な本を読めるようにする。

## 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 児童の読書傾向に偏りがあり、同ジャンルの本ばかり読む傾向がある。
- 児童数が多いため、読書スペースが狭い。

## 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

### 1 「家読」の推奨【継】

- 毎月第三土曜日を「家読の日」として設定した。
- 「家読の日」の設定について、学校だけでなく広く周知し、家庭での読書を奨励した。

### 2 学習活用資料の整備と活用【新】

- 学習関連資料（郷土資料等）の収集・整備を行った。
- 総合的な学習の時間等の学習で活用できるよう、パスファインダーを作成した。

### 3 読書スペースの拡充【新】

- 図書館前の広場にブロックソファと移動式書架を設置し、読書スペースの拡充を図った。

### 4 読書交流機会の設定【新】

- 各学年の国語の授業において、読書交流の機会を設けた。
- タブレット端末を活用したブックトーク等の読書活動を通して、児童館の読書による交流を促進した。
- 図書館の展示や、図書便りにて「おすすめ本」の紹介を行い、家庭読書を行うことでの親子間の読書交流を奨励した。

### 【読書スペースの拡充】



### 【本の展示】



## 取組による効果

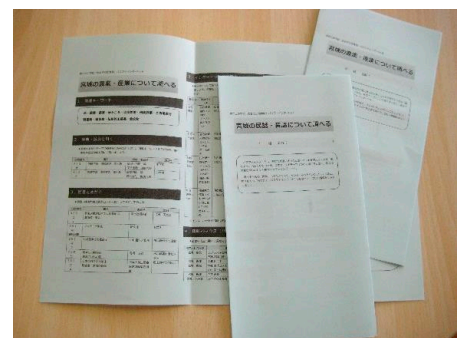
### 1 「家読」の推奨

- 「家読の日」を意識して、図書の本を借りるように声掛けする学級が増えた。
- 「家読の日」を意識した家庭学習の取組をする学年もあった。

### 【パスファインダー】

### 2 学習活用資料の整備と活用

- 学習関連資料（郷土資料等）の一層の充実が図れた。
- パスファインダーの作成により、学習に役立つ資料の提供が円滑にできるようになった。



### 3 読書スペースの拡充

- 読書スペースの拡充は、感染症予防対策の一役も担った。
- 読書スペースを活用して、図書館の選書会のイベントを行うことができた。

### 4 読書交流機会の設定

- 令和2年度は感染症対策の観点から図書館利用や対面での読書交流が難しい状況となった。中でも子どもに読書交流の機会を作るため、タブレット端末を利活用し、ブックトーク等の読書交流を実施した。例年と比較すると読書交流の機会自体は少なかったが、読書交流の機会を設けたことで、児童の読書への意欲関心を高めることができた。
- 図書事務員や図書委員会による「おすすめ本」の紹介が新しいジャンルの本を借りるきっかけになった児童もいた。

## 目標の達成状況

- 児童の学校図書館における1人あたりの年間平均貸出冊数は、50冊以上を達成した児童数が327人となり、全児童数の約30%が達成した。
- ジャンル別の貸出冊数を見ると、「自然科学」や「社会科学」、「言語」、「産業」のジャンルについて昨年度よりも貸出冊数が伸びており、学校図書館で読書する本の偏りが少なくなった。

## 取組を振り返って

- 令和2年度は、感染症対策の観点から、図書館の利用に制限を設けざるを得ず、例年よりも図書館の利活用が難しい状況にあった。例年と比べると貸出冊数は少なかったが、図書館前広場にブロックソファと移動式書架を設置し、密を避けながら安心して読書できる環境を創ることを心がけた。
- 昨年度設けた「郷土資料コーナー」が一層充実し、児童や教員の関心も高まってきた。今後それらの資料を活かすために、より一層のレファレンスが必要との考えから、令和2年度はパスファインダーの作成を試みた。今後は、パスファインダーを児童の主体的な学習に生かせるように検討していきたい。

## ◆ 注目 POINT ◆

- 郷土資料コーナーが充実し、児童や教員の関心が高まってきました。パスファインダーの活用により、今後、児童の主体的な学習が促進されることが期待される。
- 読書スペースの新設により、密を避けながら安心して読書できる環境ができた。

# 山田中学校

【生徒数：307人】

(R2.5.1現在)

## ◆ モデル校としての目標 ◆

図書館に興味を持ち、様々な本に触れる環境整備をすることにより、1か月に全く本を読まない生徒の割合が2割以下になることを目指す。

### 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 図書館があるフロア以外の生徒の、図書館利用が少ない。
- 約4割の生徒が1か月に本を一冊も読まない。

### 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

#### 1 図書委員会生徒によるテーマ展示【継】

- 同世代の視点からの推薦図書を定期的に設置し、本への興味関心を高める。

#### 2 図書館通信の発行【新】

- 月ごとの推薦図書や話題の本の紹介、多読賞等を含めた通信を発行し、読書意欲を喚起する。

#### 3 学級文庫の設置【継】

- 図書を教室に設置し、気軽に図書を手に取れる環境を整備する。

#### 4 ブックトークの実施と紹介された本の蔵書充実【新】

- 公共図書館及びボランティアを招聘し、ブックトークを各学年で実施した。
- ブックトークで紹介された本を学校でも購入し、蔵書の充実を図るとともに、生徒が手に取れる環境整備を行う。

#### 5 図書館前掲示板の充実【新】

- 図書館前の掲示板及び展示スペースを広げて、内容も充実させ、生徒がより手軽に図書に触れられるようにする。

【図書委員会生徒によるテーマ展示】



### 取組による効果

#### 1 図書委員会生徒によるテーマ展示

- 同世代が選ぶ書籍は、教員や図書事務員にはない新鮮な感覚があった。
- 「恋愛」「映画化された本」「スポーツ」などのテーマで展示され、男女問わず手に取っていた。

【図書室前掲示板の拡張】

#### 2 図書館通信の発行

- 「多読賞」を設定し、効果が見られた。



## 【ブックトークの様子】

- 「多読賞」には特に賞品等は設けなかったが、名前が掲載されることが励みになり、それを意識して貸出回数が増えた生徒もいた。

### 3 学級文庫の設置

- 30冊の本を季節毎に入れ替えて、各学級に設置した。
- 朝読書の際の活用はもとより、休み時間にも本を手にする生徒が増えた。

### 4 ブックトークの実施と紹介された本の蔵書充実

- ブックトークを行ったことで、多様なジャンルの本に触れる良い機会とすることができた。
- ブックトークの際に校外図書館から借りた本は、各学年の廊下に面出して展示し、自由に借りることができるようにした。
- ブックトークで紹介された本のシリーズを目当てに図書館に借りに来る生徒もいた。



### 5 図書館前掲示板の充実

- 図書委員による本の紹介展示をはじめ、展示スペースが広がったことにより、展示図書を手にする生徒が増えた。
- 文豪の作品など、今まで手に取ったことのない図書に手を伸ばす生徒が増え、授業の折に感想を聴くことも増えた。

## 目標の達成状況

- 掲示板の拡張により、多様な図書の紹介展示をしたところ、展示に足をとめて、本を広げる生徒がさらに見られるようになった。
- 不読率の2割以下は達成できなかったが、3割弱まで改善することができた。
- 令和3年度は、学校図書館における1人あたりの年間平均貸出冊数の改善ができるよう、取組内容を検討していく。

## 取組を振り返って

- 当初の計画では各階に移動書架を設置する予定だったが、生徒の興味を引くには掲示物の充実が適切であるとの判断に加え、図書館の向かいが全学年の生徒が利用する美術室であることを踏まえて、図書館前の掲示板設置及び内容を充実させる方向性に切り替えた。その結果、より多様な図書の掲示が可能になり、美術室に来る生徒が書籍を手にする姿が多くみられるようになった。
- 図書館通信による「多読賞」の紹介も図書室利用促進に功を奏した。図書委員会で実施している展示の制作過程でも感じるのだが、生徒にとって認められる経験が重要である事を再認識した。
- 生徒達がやりがいを感じながら、本と関われる機会を、今後も引き続き検討していきたい。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 視覚的に訴えるスペースを広くすることで、本への興味を喚起したり、読書するきっかけを作ったりすることができた。
- 図書館通信で「多読賞」紹介し、「たくさん読んでみよう」という意欲を喚起することができた。

# 八乙女中学校

【生徒数：519人】

（R2.5.1現在）

## ◆ モデル校としての目標 ◆

「大切に思える一冊との出会いがあった」、「手にとったことのない分野の本との出会いがあった」と答える生徒の割合を7割以上にする。

### 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 読書量の二極化が見られ、図書室を利用する生徒が決まっている。
- 読書傾向に偏りがある。

### 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

#### 1 朝の読書活動の習慣化【継～新】

- これまでの「朝の読書活動」のあり方を見直した。2年前までは朝15分の読書を2か月程度実施していた。昨年度はそれを1、2学年においては通年の活動とした。そして令和2年度は全学年で通年活動とした。

【学年の本棚】

#### 2 「学年の本棚」の設置【新】

- 生徒が良い本に触れる機会を増やすため、各階廊下に移動書架を「学年の本棚」として設置した。その本棚には学校図書館蔵書の本を置き、自由に読めるようにした。



#### 3 教科担当によるおすすめ本の紹介【新】

- 様々な教科の学習内容に関連した本に興味を持ってもらうため、「学年の本棚」に本を置く際、月替わりで各教科担当が生徒たちに読んでほしい本を選び、配架した。
- 各教科に関連した本を充実させるため、教科担当から希望をとり、蔵書の充実を図った。

【教科担当のおすすめ本の紹介】

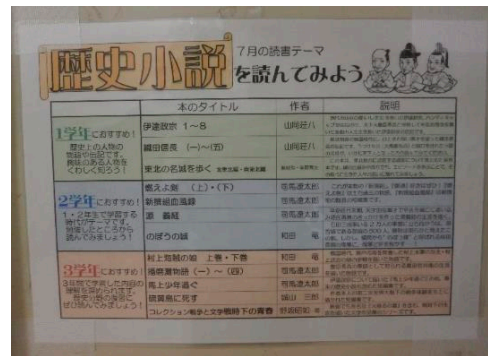
#### 4 図書委員会による広報活動【継】

- 生徒の読書意欲を高めるため、生徒の手による広報活動として、図書委員が選んだおすすめ本の紹介ポスターを作成し、昇降口や各学年の廊下に掲示した。

#### 5 ブックトーク、ビブリオバトル<sup>※</sup>の実施【継】

- 行事として教員によるブックトークや、授業の中でビブリオバトルを実施した。

※ビブリオバトル・・・時間内で本を紹介し合い、読みたくなった本に投票、「チャンプ本」を決定する書評会。



### 取組による効果

#### 1 朝の読書活動の習慣化

- 毎日の読書時間を全学年で確保したことから、2年前は46%、昨年度は25%であった不読率を12%にまで改善でき、1か月の平均読書冊数も全体的な底上げができた。

#### 2 「学年の本棚」の設置

- 学校図書館に行かなければ目にすることが無い様々なジャンルの本を、一部ではあるが日常生

## 【学年の本棚の活用】

活の中で生徒の目に触れる場所に設置することで、読書意欲を促すことができた。

### 3 教科担当によるおすすめ本の紹介

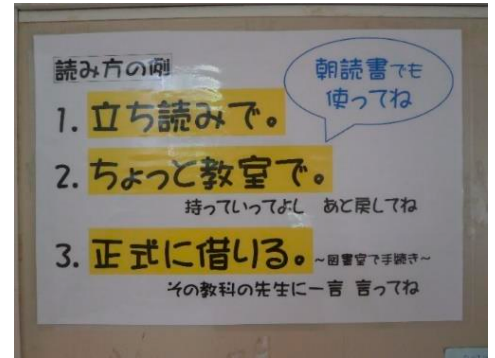
- 各教科の担当教員が声がけしたことで、多くの生徒たちを様々な本に触れさせることができた。

### 4 図書委員会による広報活動

- 生徒たちが、興味を持って紹介ポスターを眺め、紹介されている本を話題にして会話をしている様子が見受けられた。

### 5 ブックトーク、ビブリオバトルの実施

- 学校行事としてのブックトークは感染症対策の観点から実施できなかったが、一部の学級で「命のブックトーク」を実施した際は、生徒たちが皆真剣に聞き入り、「心にしみた」、「あの本買おう」等の反応が見られた。
- ビブリオバトルを実施したクラスでは、読書にさらに踏み込んだ形で、楽しく意欲的に関わることができた。



## 【図書委員による紹介ポスター】



## 目標の達成状況

- 令和2年度、「大切に思える一冊との出会いがあった」、「手にとったことのない分野の本との出会いがあった」と答えた生徒の割合はそれぞれ37%、41%という結果となった。
- 目標としていた7割以上には至らなかったが、4割ほどの生徒が「大切に思える一冊」と出会えたことは、生徒にとって貴重で大切な経験であり、嬉しく感じている。

## 取組を振り返って

- 朝の読書活動については、令和2年度は3学年を含めた全学年における通年活動とすることにより、生徒たちは安定した読書活動を続けることができた。それは、不読率の改善や、1か月の平均読書冊数の全体的な底上げにつながった。読書好きな一部の生徒だけでなく、生徒一人一人の読書量を増やすことができた。朝読書という毎日の時間設定が有効であることを改めて感じた。
- 「学年の本棚」の取組については、移動書架を利用して学校図書館外の場所（廊下等）に本を設置したことは、普段学校図書館に足を運ばない生徒たちが本の楽しみを知る良い契機となった。本を館内で管理するに留まらず、学校図書館の扉を思い切って開く面白さを感じた。
- 展示本の選出を様々な教科の担任が行ったことで、様々なジャンルの本の存在を生徒に伝えることができた。多くの教員が関わることは生徒にとって良い刺激となると感じた。今後もその都度工夫するべき点を話し合い、読書活動を推進していきたい。

## ◆ 注目 POINT ◆

- 読書の習慣化を図るため、朝の読書活動を3年生も含めた全学年による通年活動とした。
- 学校図書館の本の一部を常時図書館の外に置き、生徒たちが自由に読めるようにした。
- 図書館外に並べて生徒たちに紹介する本を、各教科の教員みんなが順次担当して選んだ。

# 鶴谷特別 支援学校

【児童生徒数：154人】

(R2.5.1現在)

## ◆ 事業実施目標 ◆

本校の教育目標達成のために、図書館の機能を十分活用できるようにする。本校の教育課程の展開に寄与し、児童・生徒の望ましい学習態度と健全な教育の育成のために資する図書資料を収集・整理し、これを児童・生徒職員の利用に供する。

## 学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 本校の児童・生徒の読書傾向及び実態に合った図書を購入し、蔵書の充実を図ることが課題である。

## 取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

### 1 購入希望図書のアンケート実施【継】

- 教員に児童・生徒用図書の購入希望調査アンケートを実施し、児童・生徒に読ませたいと思う本の選定・購入の資料とした。

【新しい本の紹介コーナー】

### 2 図書選定と購入【継】

- 購入希望アンケートを元に、図書情報部員が選書、購入した。

### 3 新規購入図書の貸出【継】

- 購入した本を廊下に展示し周知した。
- 図書の展示後、図書室で貸出開始とした。



### 4 図書室の環境整備【新】

- これまでは、本の貸出には代本板を使用していた。代本板を使用することが難しい児童生徒は、教員が代わりに対応した。
- 代本板の使用が難しい児童生徒のために、新たに「貸出簿」を図書室に設置した。

### 5 「本の病院」の設置【継】

- 児童・生徒自身が破損した本を図書室に返却できるように、「本の病院」というポストを設置した。(令和元年度から継続実施。)
- 破損した本(怪我をした本)を修理してもらう=直す(治す)という意味で、児童・生徒に物を大切に使う気持ちを育てることをねらった。
- 電池切れのメロディー絵本や、ページが破れた本等を修繕し、再び利用できるようにした。

### 6 図書委員による新しい掲示コーナー【新】

- 令和2年度より、新たに図書委員会を設置した。
- 図書委員の高等部生徒が、自分のお気に入りの本を写真入りで紹介する掲示板を作成し、図書室前の壁面に掲示した。



## 取組による効果

### 1 購入希望図書のアンケート実施

- 購入希望アンケートの際に、選書の参考として、本のカタログと一緒に回覧した。
- 多くの希望図書を集めることができた。

### 2 図書選定と購入 ※令和2年度は、感染症対策の観点から、出版会社に出向いての選定は未実施。

- アンケートを参考に、児童・生徒の実態に合った本を選書し、購入することができた。

### 3 新規購入図書の貸出

- 新規購入図書の展示を職員室前に展示したことで、担当する児童が興味を持ちそうな本を、教員がじっくり見ることができた。
- 職員室前を通る児童生徒も、展示された本に興味を持ち、好きな本を探す姿が見られた。

### 4 図書室の環境整備

- 貸出簿の運用について、児童・生徒が借りた本を教員が貸出簿に記入することで、全体の読書傾向が見てすぐ分かるようになった。
- 本棚をきれいに整えることができた。

### 5 「本の病院」の設置

- 児童・生徒が、担任と一緒に破損した本を図書担当の教員のところまで持ってきて、「本の病院に入れるので直してください」とお願いに来ることがあった。
- 「本の病院」の取組を行ったことで物を大切にしようとする意識付けにつなげることができた。

【本の病院】



### 6 図書委員会による新しい掲示コーナー

- 図書委員会の提示物について、廊下を通る児童生徒が見るだけでなく、来校した保護者も足を止めて見てくださっていた。

## 目標の達成状況

- 蔵書について、大型絵本と音の鳴る絵本が増え、より多くの学級が図書室を利用するようになった。児童生徒の実態に合った本として、触って楽しんだり、仕掛けを楽しんだりできる本も購入することができた。
- 「本の病院」の存在を、教員が意識するようになり、物を大切にすることの指導の手立てとしても活用してもらえた。

## 取組を振り返って

- 令和2年度は、蔵書の充実と、図書室の環境整備、図書委員会の活動など、様々な取組を実践することができた。
- 図書委員会については、令和2年度が初めての委員会活動であり、今後は担当教諭と連携しながら、どのような委員会活動を展開することができるか楽しみである。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 貸出簿を使用することで、学級の読書傾向が見てすぐ分かるようになった。
- 図書委員会の発足により、読書活動の推進に児童・生徒が関わる機会ができた。

### (3) 令和2年度モデル校事業の総括・今後

各モデル校において、その学校の状況に応じた子どもの読書や学校図書館活用に関する課題を見出し、解決に向けた取組を行っていただきました。

また、令和2年度は、感染症拡大の状況により、学校図書館にとっても運営が難しい状況となりました。そのような状況の中で、各モデル校において感染症対策の観点も踏まえた取組内容をご検討いただき、備品を使った工夫や展示物を利活用した読書推進活動を実行していただきました。

小学校では、学校図書館利用に制限をかけざるを得ない状況から、備品費を活用して移動書架を設置した学校が多く見受けられました。移動書架を利用した図書整備を行うことで、学校図書館が利用しにくい状況下でも、本を手に取りやすい環境をつくり、子どもの本に対する興味・関心を引き出す効果が見られました。貸出方法の見直しや返却ボックスの利活用、ソーシャルディスタンスを意識した図書整備など、感染症対策の面でも様々な工夫をしていただきました。

また、蔵書見直しを行った学校も多く、授業での図書の利活用を狙いとした取組も見られました。国語の教科書に紹介されている本を新たに蔵書整備したり、総合的な学習の時間で調べ学習のために利活用できる図書を購入し蔵書を充実させる等、「学習・情報センター」としての役割を強化することで、学校図書館の活性化を図っていただきました。

「家読」への取組も積極的に取り入れていただき、読書記録を目に見える形にすることで、児童に達成感を持たせ、家庭でも読書を通じた親子交流の良いきっかけにさせていただいたようです。

中学校では、生徒自身による掲示物の作成・展示や、朝読書の取組の継続、移動書架の蔵書内容への工夫等、読書への興味関心を喚起させる取組を行っていただきました。感染症対策の観点から、例年よりブックトークやビブリオバトルを実施しにくい状況ではありましたが、授業の一環でブックトークを実施いただいたり、教科担任おすすめの本を移動書架に配置し、様々なジャンルの本の魅力を伝える取組等を実施いただき、生徒の図書館活用・読書推進を図っていただきました。

特別支援学校では、蔵書の見直しや、新たに図書委員会を設置して図書掲示物を工夫する取組を実施いただき、「本の病院」の取組では、読書を通じて「物を大切にすること」を学び、思いやりの心を育て、想像力を育むという、読書の可能性を広げる取組を行っていただきました。

どのモデル校も、子どもの読書活動を支える環境を整えるべく工夫を凝らした取組を実施してくださいました。各モデル校には、今回の事業の実績を踏まえて、次年度以降も引き続き取組を推進していただければと存じます。また、令和2年度の実施内容や、実施した結果、新たに明らかになった課題などを他校にも積極的に共有していただくことで、本市における学校図書館の更なる効果的活用や子どもの読書活動推進に努めていただきたいと考えております。

結びに、真摯に活動に取り組まれた令和2年度学校図書館運営モデル校の先生方及び図書事務の方、並びに事業実施へのご支援・ご協力を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます。



令和2年度  
仙台市学校図書館運営モデル校  
取組事例集

令和3年10月発行  
仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課  
〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目5番12号  
TEL : 022-214-8886 FAX : 022-268-4822  
Email : kyo019310@city.sendai.jp